



# 修復の軌跡展

場所：奈良県立図書情報館エントランスホール

日時：平成18年2月21日(火)～3月5日(日)

入場無料

## 文化財建造物の保存修理の足跡をたどる

明治20年代から今日までの約110年間にわたり、奈良県は古社寺の建造物を修理してまいりました。

傷んだ建物を詳細に調査し、その建物にふさわしい健全で美しい姿を次の世代に伝えていくため、今までに多くの建物が修理され、そしてそれは今も続けられています。

今回、これまでの修理の際に作成された図面や写真で、修理の足跡を概観するとともに、現在修理を行っている唐招提寺金堂の修理の様子もご紹介します。



# 修復の軌跡展



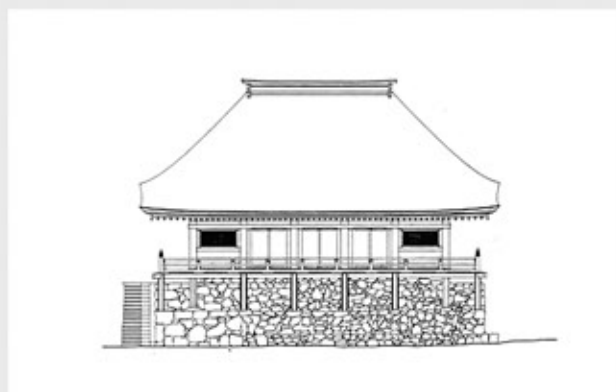
国宝 室生寺金堂 修理前

明治40年頃



同上 竣工

明治41年頃



同上 竣工正面図

今回紹介する写真や図面は、保存修理事業で作成された修理前写真、竣工写真、竣工図面で、奈良県教育委員会事務局文化財保存課所蔵のものに、文化庁所蔵分を加えたものである。

近代的な保存修理が行われるようになってから今日まで、約110年の月日が経過し、社会情勢や建築技術は大きく変化した。しかしながら、基本的な修理理念や手法はほとんど変化していないと言って良い。また、恐慌、戦争など不安定な社会においても、保存修理事業は途切れることなく継続して行われてきた。現在も県内に5箇所の出張所が開設され、専門職員が保存修理事業にあたっている。

明治元年、神仏分離令が布告されると、これをきっかけに全国各地で寺院の破壊や僧侶の還俗強制など、いわゆる廃仏棄釈の風潮が広まった。これに拍車をかけるように、明治4年には社寺領上知令が出され、古社寺は経済基盤であった領地を失い窮乏し、建物は荒廃していった。

この反省から明治5年に古器旧物保存方が布告され、官費補助による古社寺の建造物修理が行われるようになり、明治30年の古社寺保存法の制定以降、本格的な保存修理が行われるようになった。この頃から奈良県には専門職員が配置され、直轄による保存修理を行っている。

保存修理はまず現状把握から行われる。着手前の状況写真を撮影するのは勿論のこと、各部の詳細な実測を行って、図面が作成される。対象となる建物は建築後数百年を経過するものがほとんどであり、その間に一度の修理も受けていない建物は皆無である。このため、建物の構成部材には後世に修理あるいは付加されたものが混在し、本来の姿が分かりにくくなっている。解体中の調査はこれら後補材を整理し、建物がたどった改変の履歴を明らかにするとともに、建築当初の規格や工法などを調べることに重点が置かれる。解体終了後は調査の結果を踏まえた修理方針の再検討が行われ、詳細な実施仕様と図面が作成された上で、建物の再構築が行われる。



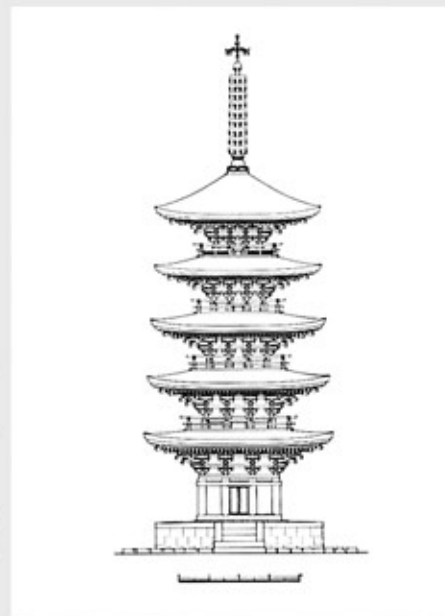
国宝 室生寺五重塔 修理前

平成10年



同上 竣工

平成12年



同上 竣工正面図